

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 減少傾向にある院生数に歯止めをかける方法を2010～2012年度に検討し、順次、実施に移す。	→大学院生の定員充足率	C	C	C	C	C
2. 総合政策学部・成績優秀者の内部進学者を増やす方法を2010年度中に検討し、実施する。	→総合政策学部からの内部進学者で成績上位50番以内の学生数	C	C	B	C	C
3. 社会人大学院生を増やす方法を2011年度までに検討し、2013年度までに院生数に占める割合を3分の1を増やす。	→社会人大学院生の院生数に占める比率	D	C	C	C	C
4. 留学生の数を増やす方法を2012年度までに検討し、アジア諸国を中心に国の多様化も図る。	→大学院留学生の総数と留学生の国の数	C	C	C	C	C
5. 英語のみで修了可能なコース(国際開発戦略コース)の院生数を2013年度までに10名を増やす。	→英語での修了コース(国際開発戦略コース)の大学院生の数	D	C	C	C	C
6. 「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ科目」を新たに設置し、それぞれのコースに所属する院生を5名確保する。	→「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ」に登録する大学院生の数	D	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院についての学部説明会、各研究演習での大学院進学への奨励など複数の機会に大学院進学についてアピールをした。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の大学院入学者数は博士課程前期課程8名、後期課程1名であった。2012年度と比べて6名の減少である。原因については現在分析中であるが、他大学(本学他研究科も含めて)の大学院に進学する学部卒業生を総合政策研究科に出願させるかを検討していく必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 定員の適切性も含めて今後の検討課題として定員充足率の問題をさらに検討する。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院の魅力やメリットを積極的に説明会や各研究演習でアピールすることを継続する。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は学部での成績50位以内で大学院に進学したものは2名であった。大学院進学希望者が多くないのが現状である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後さらに各研究演習での大学院アピールなど、特に成績上位者に対するアピールを増やしていく計画である。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 社会人大学院生を増やすために大学院案内を中心としてアピールをおこなった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度社会人大学院生として在籍するのは博士前期課程4名である。立地条件もさることながら、他大学も含めて専門職大学院が多数存在し、選択肢が増えたことも原因としてあげられよう。2013年度にカリキュラムも含めて対策を検討した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後社会人大学院生が増加する要因は非常に少ないと思われる。むしろそれ以外の大学院生の獲得に向けて検討を重ねるべきかもしれない。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 留学生に関しては大学院案内を通じてアピールを続けてきた。また研究演習を通して学部の留学生に対しても大学院入学を勧めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 留学生在籍者は前期課程8名(2カ国)、後期課程2名(1カ国)である。在籍院生に占める留学生の割合は博士前期課程で33.3%、博士後期課程で40%である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後、もう少し幅広い留学生の確保に向けて努力を続けていきたい。	☆
		その他	☆
			☆

目標5	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 英語コースへの留学に向けた広報は限られており、十分な情宣がおこなわれていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度英語コースの履修者はなかった。今後、英語コースを履修する留学生を増やすには、とくに第2言語として英語を使用している地域に向けて、積極的に英語コースの存在をアピールする必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度のカリキュラム改定に向けて英語コースをどうするかも検討課題として議論されている。	☆
		その他	☆
			☆
目標6	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院案内、説明会等で建築士実務経験プログラムについての説明を増やした。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か コース目標の理解も進んでおり、2013年度に防災をテーマとした博士論文が1編提出された。2012年度には建築士実務プログラムに2名が登録した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 災害復興コースは引き続き学生のニーズを確認しながら実施の時期を決定する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	50	50	50	50	50	・5/1現在
		後期課程		5	5	5	5	5	
指標2	志願者総数	前期課程	人	31	17	20	8	9	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	1	1	2	
指標3	合格者数	前期課程	名	25	15	15	8	8	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	1	1	2	
指標4	入学者数	前期課程	名	21	13	14	8	7	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	1	1	2	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.6	0.3	0.4	0.2	0.2	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.0	0.8	0.2	0.2	0.4	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.37	0.33	0.31	0.29	0.25	
		後期課程		0.24	0.28	0.28	0.32	0.32	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	52.4%	69.2%	57.1%	50.0%	57.1%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	100	100	100	100	100	・5/1現在
		後期課程		15	15	15	15	15	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	40	37	32	24	20	・5/1現在
		後期課程		2	8	6	5	5	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	40.0%	37.0%	32.0%	24.0%	20.0%	・5/1現在
		後期課程		13.3%	53.3%	40.0%	33.3%	33.3%	